

大津ヶ丘アクティブ大作戦

5年

総合的な学習の時間

小澤 恵美子, 池田 智久, 小林 郁和

学習のゴール

地域の方々との交流を深めるために、地域の方々と協働しながら大津ヶ丘の魅力を探究し、webサイトを作って公開する。(クリエイティブ・コンフィデンスの獲得)

身に付けさせたい力（情報活用能力育成の視点から）

- ・地域の方々に取材をして情報を収集したり、地域の交流が深まるように情報を整理・分析し、表現・まとめの方法を工夫したりすることができるようにする。
- ・オンラインを活用しながら地域の交流を深める取り組みを通して、地域や情報社会への参画意識が持てるようにする。

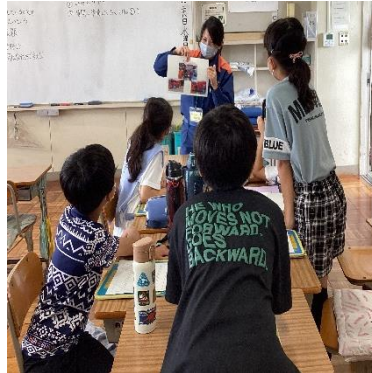
情報活用能力ベーシックによる学習のプロセス(20時間)

学習プロセス	時	学習内容
1 課題の設定	1	○地域の方々に地域の良さ、課題などについてインタビューする。
	2	○インタビューしたことを共有し地域の方々の思いや願いを知る。
	3	○インタビュー内容をもとに、取り組む課題について話し合う。
2 情報の収集	4	○グループごとに課題を共有し、学習の見通しを持つ。
	5	○地域の方々への取材の計画を立てる。
	6	○地域の方々に取材し、地域の交流を深めるために活動している施設や人、取り組みの情報を収集する。
3 整理・分析	7	○どのような表現方法が良いかを考えながらサイトマップを作成する。
	8	○サイトマップをもとに、それぞれのページのレイアウトを考える。
	9	○ウェブサイト全体の構成を作成し、ページを割り当てる。
	10	○コンテンツブロックを挿入し大まかなページのレイアウトを作成する。
4 まとめ・表現	11	○ウェブサイトの表現方法を工夫して完成させる。
	～	○地域の交流を促進する新たな活動を創造し、実践する。
	18	○必要に応じて取材するなど学習のプロセスを行き来しながら活動する。
5 振り返り・改善	19	○ウェブサイトを仮公開し、自分たち及び外部の方からの助言を集める。
	20	○助言をもとにウェブサイトを修正・改善し、公開する。

実践の流れ

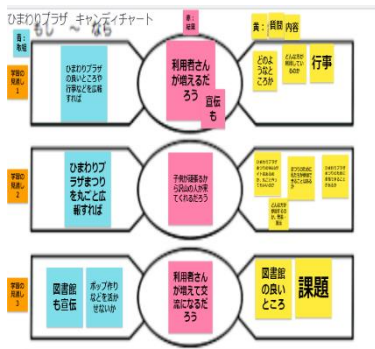
1 課題の設定(1～3時間目)

6月下旬に地域代表者25名を招いた児童によるインタビューを実施した。インタビューした内容は、「地域でどのような活動をしているのか」「地域の良いところ」「地域の課題」「小学生に期待すること」の4項目である。収集した情報を整理・分析したところ、地域の課題として「交流が少ないこと」、自分たちの強みとして「林間学校で情報発信をしたこと」が挙がり、「交流を深めるための情報発信」が活動案の1つとして出された。児童から取材対象として、商店街、公共施設、農家などが挙がり、夏季休業中に学校長と指導者の計5名が検討した結果、児童が商店街、近隣センター、農家の3チームに分かれ、それぞれと協働して「地域の交流を促進するウェブサイトでの情報発信」という課題解決に取り組むこととなった。



2 情報の収集(4～6時間目)

収集すべき情報を整理し、取材の計画を立てるために、キャンディーチャートを活用した。計画をもとに、地域の方へのより深い取材を計画・実施し、ウェブサイト制作に必要な情報を収集した。



5 振り返り・改善(19, 20時間目)

仮完成したウェブサイトを外部の協力者に公開し、助言を受けた。この助言をもとに修正・改善を行い、ウェブサイトを一般に公開した。公開後はウェブサイトに設置したアンケートフォームを通じて、一般ユーザーからのフィードバックを収集した。



【最新のお知らせ】

- ・「ポータルサイト」：「研究発表会」のページに発表者からの研究発表感想を追加しました。（更新日：2023/12/11）
- ・「ポータルサイト」：「研究発表会」のページに発表映像とプレゼン資料を公開しました。（更新日：2023/12/6）
- ・「ポータルサイト」：「メディア関係情報」のページを公開しました。（更新日：2023/12/1）
- ・「ポータルサイト」：「学習発表会のお知らせ」を更新しました。（更新日：2023/11/30）
- ・「ひまわりプラザ」のサイトを更新しました。（更新日：2023/11/17）

ウェブサイトアンケート

5年生のウェブサイトをご覧いただき、ありがとうございます。励みになりますので、ぜひご感想をお聞かせください。

ikeda1802@g.kashiba.ed.jp アカウントを切り替える

共有なし

* 必須の質問です

1 ご所属（例：〇年生の保護者、大津ヶ丘在住の地域で〇〇をしている方、ウェブサイト制作の仕事、大學生 などお立場でも結構です。混雑にわかりやすいように整理にご説明いただけるとありがたいです。）

回答を入力

2 お名前（ニックネームでも結構です）*

回答を入力

ひまわりプラザまつり「研究発表」に参加した児童の感想

- ・私は、総合の学習に取り組む中で、地域の方が私達に期待していることが分かり、とてもうれしく感じました。なので私は「ひまわりプラザまつりの発表で学習に協力してくださった方々の期待に応えたい。」と思いました。そのために、私は練習を頑張りました。先生たちにもアドバイスをもらって、より良い発表ができるようになってきました。当日は全員そろって良い発表ができ、「学習に協力していただいた方々の期待に応えられたかな。」と思いました。これからも、地域の方の交流が深まるように活動をしていきたいです。（ハッピー）
- ・総合の時間にウェブサイトを作りました。地域の皆さんにもウェブサイトを見て、地域の魅力を知ってほしい、そして、地域の交流が深まってほしいという気持ちで発表しました。練習もみんなで力を合わせて頑張りました。本番は、よい発表ができました。発表終了後、みんな笑顔でした。やってよかったなと思いました。地域の方々に大津ヶ丘の魅力が伝えられたし、大勢の前で発表ができる、と自信にもなったからです。私は農家チームなので、お世話になった農家さん達が喜んでくれたらいいなと思います。農家さんはもちろん、地域の皆さんの心にも響いていたらいいなと思います。これからも、地域の交流が深まるように活動をしていきたいです。（雪だるま）
- ・私は、総合の時間にウェブサイトを作りました。ウェブサイトを見てもらい、「地域の知らないことを知ってほしい。」という気持ちで取り組みました。発表も地域を活性化させたいという気持ちで臨みました。すごく緊張したけれど、みんなも緊張したみたいで安心しました。お客さんから発表が終わった時に拍手をもらい、すごくうれしかったです。（メガネ）

子供の変容

児童を対象に事前調査（6月）、事後調査（11月）を実施した。

以下の質問項目に対し児童は、「4：当てはまる」「3：どちらかといえば当てはまる」「2：どちらかといえば当てはまらない」「1：当てはまらない」の4つの選択肢で回答している。

★Web ページ等のネットワークの特性を生かした発信・交流をすることは得意である。

1. 56→3. 52 ↗

★自分には周囲の世界（学級、学校、地域）を変える力がある。

1. 96→3. 48 ↗

2つの項目において、意識の向上が見られた。情報活用能力の育成については、各学習プロセスにおける活動を児童が柔軟に行き来しながら、効果的に学習を進めていくことができたからだと考える。また地域との協働や主体的に社会参画に携わる活動が、児童の創造性や自信を高めたと考察できる。

創造性を育む学びのポイント

Point！ 外部人材の活用

本単元を進めていくにあたって、外部人材の活用がなくてはならないものであった。課題設定の場面では、地域をより良くしようと活動している地域の方の存在を知り、自分たちに何かできることはないだろうかという課題意識を持つことができた。その後、多くの関わりを持った商店街、ひまわりプラザ、近隣農家の方々に子ども達は、「期待に応えたい」「喜んでもらいたい」と感想を述べている。常に相手意識を持って活動してきたことが、創造性を育む学びへつながったと考える。



Point！ 情報モラル教育のタイミング

発信する情報には「責任」を！これは、本単元に入る前に「情報発信ライセンスを Get しよう」という学習活動で学んだキーワードである。（6月の林間学校前に全員が情報発信ライセンスを取得）

「情報モラル・情報セキュリティー」について、ある程度学んだ段階で学習を進めたことで、情報活用能力を深化させることができたと考える。

